

① イノシシ対策について

先日、丹精込めて育てた農作物が、収穫間際にイノシシの被害にあったと相談をうけた。

被害状況は畑一面の果樹が無残にも引きちぎられ、ほとんどの果樹が残されていなかった。この生産者は「ワイヤーメッシュなど補助対象は知っているが、耕作地も小さく年齢も高齢である事から、耕作をやめてしまおうか」と話されていた。さらに違う生産者からも同じ様な相談をうけた。

2件のイノシシ被害はいずれも耕作地が住宅街に近く、えさを求めて住宅街に侵入する機会が増えるのではないかと感じた。

全国でもイノシシ被害は、農産物の被害にとどまらず、家屋や人間にまで被害が及ぶという状況が各地で報告されて報道されているところである。

農水省の資料によると、昨年イノシシによる人的被害は51件あり、59人の方が被害を受けたと報告がされている。

さらにイノシシは、さまざまな感染症を媒介する可能性があり、人間や家畜との接触機会の増加は、感染症媒介の危険性を増加させる。

生産者が耕作をやめれば、その土地は草木が生い茂りイノシシの隠れ場所となる事が予想され、さらに人家に近づく機会が増えたと考えられる。

イノシシ被害の防止策は、生息環境管理、防護、捕獲と言われている。

以上の状況をふまえ以下の質問をする。

- (1) 農業従事者だけでなく、広く町民にもワイヤーメッシュなどの助成ができないか。
- (2) 住宅地への侵入を防ぐ対策はどのように考えているのか。

② 私有地の災害復旧支援について

全国で毎年の豪雨による災害が広がっている。特に九州北部は毎年のように土砂災害、浸水被害などが起きている。

東高田地域でも8月の豪雨で土砂の崩落がおきた。幸い人や家屋には被害がなかった。

土砂の崩落場所は私有地であり今後の復旧作業は所有者の判断となるが、相当な費用が掛かると予想される。またこれまでも小規模な崩落箇所ブルーシートが掛けられたままの状態が見られる。個人での復旧作業が困難である事が想像できる。

こうした個人所有地の災害に対し、復旧費の一部を助成する制度をもつ自治体がある。本町でも住民の負担の軽減や、被害の拡大を防ぐためにもこうした制度をつくる考えはないか。